

いなべ市立小学校の適正規模及び 適正配置について（提言資料）

平成25年2月14日

いなべ市立小学校適正規模検討委員会

資料目次

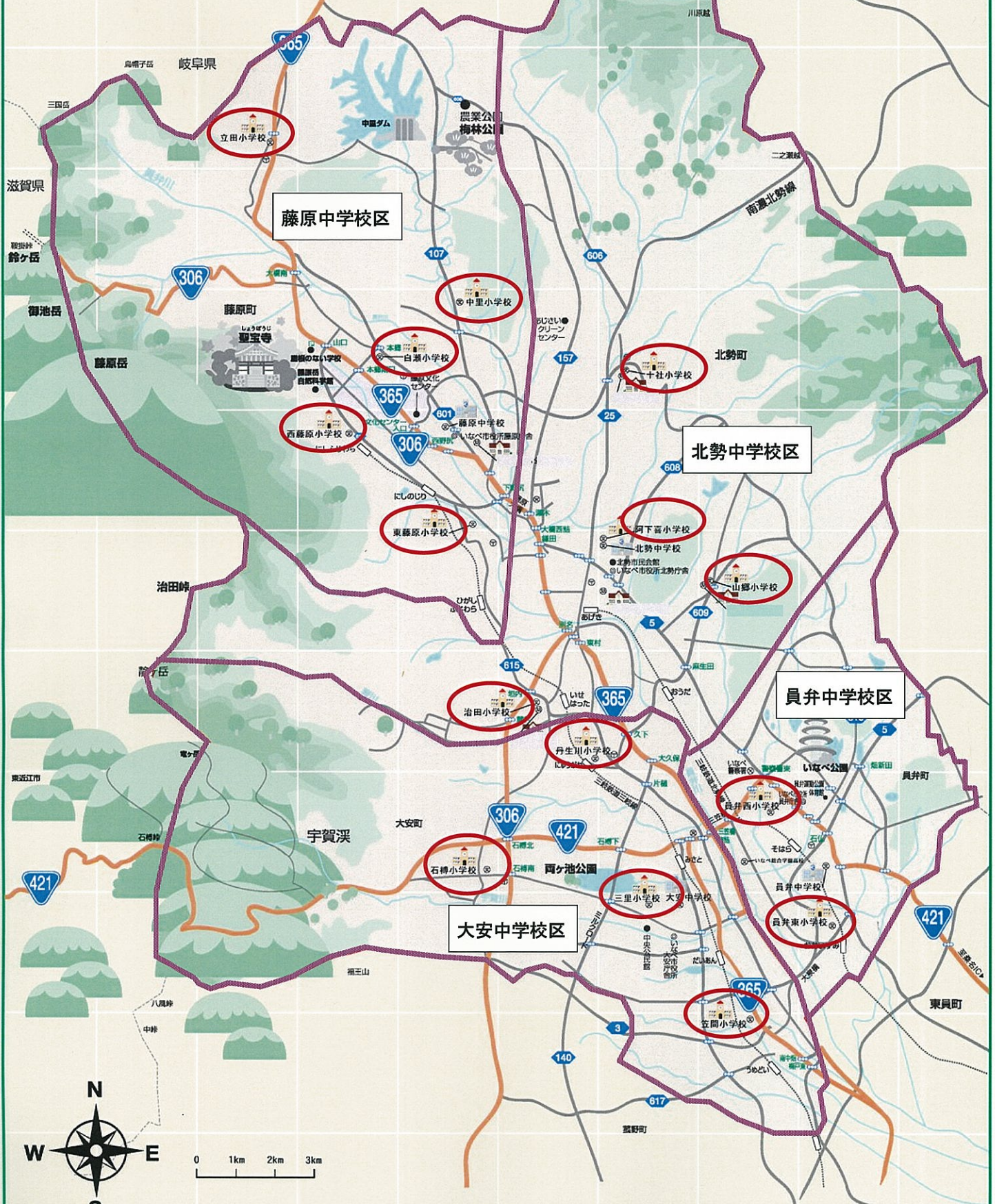
I	いなべ市 小学校・中学校マップ	1 P
II	いなべ市立小学校案内	2 P
III	いなべ市立小学校「総合学習等、特色ある取組」	10 P
IV	小学校と中学校の連携した取組	25 P
V	いなべ市立小学校適正規模検討委員会設置要綱	27 P
VI	いなべ市立小学校適正規模検討委員会名簿	28 P

INABE CITY SCHOOL MAP

いなべ市立 小学校・中学校マップ

凡例

- 中学校区
- 小学校



阿下喜小学校（あげきしょうがっこう）

〒511-0428

住所 いなべ市北勢町阿下喜 2 5 6 2 番地 1

電話 0594-72-2072

FAX 0594-72-4084

交通手段 三岐鉄道 北勢線 阿下喜駅下車 徒歩 15 分

三重交通 北勢庁舎前下車 徒歩 5 分

【学校教育目標】

自分の考えを持ち、仲間とともに心豊かにたくましく生きる子を育てる



全校児童数 173人

普通学級数 6クラス

特別支援学級 2クラス

（平成 24 年 5 月 1 日現在）

治田小学校（はったしょうがっこう）

〒511-0432

住所 いなべ市北勢町東村 30 番地 1

電話 0594-72-3044

FAX 0594-72-8722

交通手段 三岐鉄道 三岐線 伊勢治田駅下車 徒歩 5 分

【学校教育目標】

自ら考えを持ち仲間とともに行動する子 ～ かしこく 豊かに たくましく ～



全校児童数 174人

普通学級数 7クラス

特別支援学級 1クラス

（平成 24 年 5 月 1 日現在）

十社小学校（とやしろうしょうがっこう）

〒 511-0413

住所 いなべ市北勢町畑毛 634 番地

電話 0594-72-2307

FAX 0594-72-7263

交通手段 三岐鉄道 北勢線 阿下喜駅下車 タクシー 10 分

【学校教育目標】

『自ら考え、自ら動こう！』 ～ 子どもたちが光り輝く学校生活が送れるように ～



全校児童数 134 人
普通学級数 6 クラス
特別支援学級 2 クラス
(平成 24 年 5 月 1 日現在)

山郷小学校（やまさとしょうがっこう）

〒511-0425

住所 いなべ市北勢町大辻新田 276 番地

電話 0594-72-3025

FAX 0594-72-7303

交通手段 三岐鉄道 北勢線 麻生田駅下車 徒歩 25 分

【学校教育目標】

豊かに生きる子



全校児童数 288 人
普通学級数 12 クラス
特別支援学級 2 クラス
(平成 24 年 5 月 1 日現在)

員弁西小学校（いなべにししょうがっこう）

〒 511-0205

住所 いなべ市員弁町笠田新田 6 0 7 番地

電話 0594-74-2063

FAX 0594-74-5787

交通手段 三岐鉄道 北勢線 楚原駅下車 徒歩 1 5 分

【学校教育目標】

だれもが安心して過ごせ、自信が持て、生き生きと目を輝かせる学校



全校児童数 3 2 8 人
普通学級数 1 2 クラス
特別支援学級 2 クラス
(平成 24 年 5 月 1 日現在)

員弁東小学校（いなべひがししょうがっこう）

〒 511-0224

住所 いなべ市員弁町大泉 1 2 0 1 番地

電話 0594-74-2073

FAX 0594-74-5788

交通手段 三岐鉄道 北勢線 大泉駅下車 徒歩 5 分

【学校教育目標】

自ら学び、仲間とつながり、豊かな心を持つ子



全校児童数 2 2 0 人
普通学級数 8 クラス
特別支援学級 2 クラス
(平成 24 年 5 月 1 日現在)

笠間小学校（かさましょうがっこう）

〒511-0281

住所 いなべ市大安町門前561番地

電話 0594-77-0540

FAX 0594-77-1743

交通手段 三岐鉄道 三岐線 梅戸井駅下車 徒歩10分

【学校教育目標】

豊かな心を持ち、自立をめざして生き生きと活動できる子どもを育てる。



全校児童数	252人
普通学級数	10クラス
特別支援学級	1クラス
(平成24年5月1日現在)	

三里小学校（みさとしょうがっこう）

〒511-0273

住所 いなべ市大安町平塚1247番地

電話 0594-78-0207

FAX 0594-78-2239

交通手段 三岐鉄道 三岐線 三里駅下車 徒歩15分

【学校教育目標】

豊かな心と確かな学力を育み、仲間と共に自立する子どもを育てる。



全校児童数	278人
普通学級数	11クラス
特別支援学級	2クラス
(平成24年5月1日現在)	

石樽小学校（いしぐれしょうがっこう）

〒 511-0266

住所 いなべ市大安町石樽南 6 1 1 番地

電話 0594-78-0002

FAX 0594-78-1949

交通手段 三岐鉄道 三岐線 丹生川駅下車 徒歩 3 0 分

【学校教育目標】

「考え、つながり、行動する子」の育成を図る。 ～ かつこいい石ぐれっ子になろう ～



全校児童数 278人
普通学級数 11クラス
特別支援学級 2クラス
(平成 24 年 5 月 1 日現在)

丹生川小学校（にゅうがわしょうがっこう）

〒511-0262

住所 いなべ市大安町丹生川中 1 1 8 9

電話 0594-78-0224

FAX 0594-78-2288

交通手段 三岐鉄道 三岐線 丹生川駅下車 徒歩 3 分

【学校教育目標】

自ら考え、判断し、行動する子に！



全校児童数 107人
普通学級数 6クラス
特別支援学級 2クラス
(平成 24 年 5 月 1 日現在)

東藤原小学校（ひがしふじわらしょうがっこう）

〒 511-0514

住所 いなべ市藤原町石川 9 8 9 番地

電話 0594-46-2211

FAX 0594-46-8501

交通手段 三岐鉄道 三岐線 東藤原駅下車 徒歩 15 分

【学校教育目標】

豊かな心を持ち、自立する子を育てる



全校児童数	80 人
普通学級数	6 クラス
特別支援学級	1 クラス
(平成 24 年 5 月 1 日現在)	

西藤原小学校（にしふじわらしょうがっこう）

〒 511-0518

住所 いなべ市藤原町坂本 1 3 番地

電話 0594-46-2028

FAX 0594-46-8235

交通手段 三岐鉄道 三岐線 西藤原駅徒歩 10 分

【学校教育目標】

にこにこ安心できる友だち・学校
ふるさと（環境）を大切にする子

しんけんに学習する健康でたくましい子
じぶんで考えて、行動できる子



全校児童数	48 人
普通学級数	5 クラス
特別支援学級	1 クラス
(平成 24 年 5 月 1 日現在)	

白瀬小学校（しろせしょうがっこう）

〒511-0523

住所 いなべ市藤原町本郷303番地

電話 0594-46-2038

FAX 0594-46-8503

交通手段 三岐鉄道 三岐線 西藤原駅下車 徒歩30分

【学校教育目標】

友だちと力を合わせ、生き生きとした生活を創り出す子を育てる



全校児童数	89人
普通学級数	6クラス
特別支援学級	0クラス
(平成24年5月1日現在)	

立田小学校（たつたしょうがっこう）

〒511-0521

住所 いなべ市藤原町古田1618番地

電話 0594-46-2058

FAX 0594-46-8704

交通手段 三岐鉄道 三岐線 西藤原駅下車 車15分

【学校教育目標】

一人ひとりが輝き、仲間と共に高まり合う子 保護者・地域と共に歩む学校



全校児童数	36人
普通学級数	4クラス
特別支援学級	1クラス
(平成24年5月1日現在)	

中里小学校（なかざとしょうがっこう）

〒511-0502

住所 いなべ市藤原町上相場 8 2 8 番地

電話 0594-46-2700

FAX 0594-46-8705

交通手段 三岐鉄道 北勢線 阿下喜駅下車 タクシー 20 分

【学校教育目標】

『考える子・仲良くする子・元気な子』



全校児童数	78人
普通学級数	6クラス
特別支援学級	1クラス
(平成24年5月1日現在)	

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

阿下喜小学校 【児童数 173名、8学級（普6、特2）】	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】「地域と関わり、地域を知り、地域から学び、地域と共に生きる子どもを育てる」 1・2年は身近な人・自然・遊び等、3年は地域、4年は環境、5年は米作り、6年は人権・生き方をテーマに、探究的な学習に協同的に取り組める子どもを目指す。
2 特色	◇桐の子タイム（総合的な学習の時間） 1～2年：自然観察、野菜や花づくり、地域に伝わる昔の遊び 3年：公共物（北勢線、桐林館、まちかど博物館、いなべっこなど）と支えている人々 4年：環境問題、「きつずISO」の取組、ごみ削減 5年：稲作を通じて地域や社会に目を向けた探究学習 6年：地域の人々との出会いや交流を通じ、つながりや生き方に学ぶ
3 課題	・外国人児童家庭だけでなく、保護者の仕事の都合で、留守家庭が増加しつつある。 ・言葉・文化の壁があり、保護者に対しての国際理解、交流が必要である。 ・外国人籍の保護者に対する、各種ガイダンスを丁寧に行う必要がある。
4 地域との かかわり	・地域のゲストティチャーの招聘、学習発表会時に亀齢会（老人会）の方を招待 ・三世代交流（しめ縄作り）と文化継承 ・下校ボランティアによる児童の安全確保 ・阿下喜の伝統行事である「八幡祭り」に、外国籍児童も多く参加している。
5 その他	外国人児童が全校児童（173名）の約20%（34名）在籍。

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

治田小学校 【児童数 174名、8学級（普7、特1） ※6年は加配学級	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】「治田の『自然・もの・人』とのかかわりを重視した体験活動を通して、言葉の育成を図り、豊かな学力を育成する」 地域の「自然・もの・人」との触れ合いを通して、地域に愛着を持つ子を目指す。
2 特色	【4つの活動の柱】 1 土に親しみ、生産の喜びを体験する活動・・・「学級園」での作物栽培 2 環境や安全についての活動・・・アルミ缶、エコキャップ集め、水を中心とする環境学習、地域のゴミを拾うボランティア活動、地域に花を植える活動 3 自らの生き方を見つめる福祉体験活動・・・老人保健施設への訪問 4 地域の「自然・もの・人」とのふれあい活動・・・寺山探検、青川探索、プランターで育てた花を施設にプレゼント等。
3 課題	・ 学校として1年～6年まで学習内容の系統性がうすい。 ・ 今後どの活動でどんな力をつけていくのか等明確にしていく。
4 地域とのかかわり	『治田の地域の「自然・もの・人」との触れ合いを通して』とかかげ、地域との関わりは密接である。地域の協力なくしては、この事業は成り立たない。
5 その他	平成24年度から「海を守る植樹教育事業」（B＆G事業）に取り組む

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

十社小学校 【児童数 134名、8学級（普6、特2）】	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】「自然が好き、地域が好き、学びが楽しい」 地域を流れる川を学習題材にして全校で系統的に取り組む「田切川学習」と、体験活動を主とした課題解決学習に取り組み、自ら考え、自ら動く子の育成を目指している。
2 特色	◇田切川（天然記念物「ネコギギ」）について学ぼう（環境学習） ◇1・2年：花や野菜の栽培・春・秋・冬さがし・昔の遊び・四季折々の行事 3・4年：米づくり・餅つき体験・昔の生活調べ・地域調べ 5年：農作物の栽培・野外体験学習・情報学習 6年：修学旅行に向けての事前学習・野外体験学習・情報学習 全校：生活科や総合学習で学んだことを中心に学習発表会で発表する
3 課題	・天然記念物の「ネコギギ」は飼育できないこと等、学習(活動)が制限される。 ・校区が非常に広いために、児童の活動には交通手段の確保が必須である。
4 地域との かかわり	・田切川の活動や「昔の遊びの会」等、地域のお年寄りに支援をお願いしている。 ・米作りは地域の方に学習田として提供を受け、児童の祖父母や地域のお年寄りに支援者として共に活動してもらっている。 ・収穫祭（餅つき大会）やさくらまつり（学習発表会）には地域の方を招待している。
5 その他	分校が2校あったが、平成16年4月に統合。三世代同居家庭が他校と比べ多い。

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

山郷小学校 【児童数 288名、14学級（普12、特2）】	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】【自分発見・人発見・地域発見】～地域に学び、人と関わりながら自分自身を発見～ 学校の果たす役割として、各学年の活動が、全校児童や各家庭、そして地域全体も巻き込んでいける取り組みへと発展していくことを目指している。
2 特色	特支：学級園での野菜作り、シルバークラブ（介護施設）交流、電車で遠足等 1年：花の栽培観察、地域探検（山、田、山田川）、自然物での工作作り等 2年：地域の自然観察、野菜の栽培・観察と調理、郵便局の見学と体験学習。 3年：地域のしいたけ栽培（菌の植え込み体験）、地域の工場見学等 4年：点字・車いす体験、福祉交流、認知症キッズサポーター、ゴミ減量等 5年：年間を通しての米作り体験と収穫祭・学習発表、キッズISO14000 6年：地域の歴史探求（史跡や遺跡見学や聞き取り）と学習発表、遺跡発掘体験等 全校：保護者や地域の方に学習内容を発表する。「地域大切運動」（ゴミ拾い）。
3 課題	地域を教材化した授業実践や開かれた学校づくりが求められているが、学校全体で地域教材に取り組む時間的余裕がなく、実践を深めることが困難な状況である。
4 地域との かかわり	総合学習等で学んだことを学習発表会等の場で、保護者や地域の方やゲストティーチャーを招待して発表している。学習内容をパンフレットにして地域へ発信。
5 その他	外国籍児童が7%を占める。通級指導教室（LD等）の拠点校

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

員弁西小学校 【児童数 328名、14学級（普12、特2）】	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】『西っ子夢プロジェクト～ 伝えよう、音楽の力。つなげよう、友だちの輪 ～』 「鼓笛、合唱でつながろう」を合言葉に、全校鼓笛と合唱や地域の自然・人・文化にふれあう活動を通して、自分の生き方を考えることができる能力を培っている。
2 特色	1年：「四季を発見して季節を楽しむ」（野菜栽培、昆虫飼育、食育活動） 2年：「自然体験、地域、人とのつながりを豊かに」（野菜栽培、昆虫飼育、昔の遊び） 3年：「我が町探検隊」（地域の自慢を探そう、課題設定と調査、発表） 4年：「体験活動を通して自分を見つけよう」（点字体験、障がい体験、用水・ため池調べ） 5年：「たった一つの地球」（百人一首、環境問題について調べ学習） 6年：「いろいろな文化、いろいろな生き方」（日本の歴史や世界遺産・歴史遺産調べ）
3 課題	児童数が増加しており、自治会も一昨年に1地区、本年度も1地区増加した。子育て共同体としての地域との関わりが希薄化しつつあり、今後それに伴う教育活動の見直しや改善、地域と繋がる工夫を考えていくことが課題である。
4 地域との かかわり	・児童の祖父母・地域高齢者との交流…生活科・総合学習で（栽培・昔遊び・地区探検） ・地域の店舗・事業所との連携…見学受け入れと合唱等行事参加による相互協力 ・学校行事への参観案内、学校評価の公開（自治会を通じての全戸回覧）
5 その他	各学年2学級で、10年推計によれば今後もこの規模で推移する予定である。

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

員弁東小学校 【児童数 220名、10学級（普8、特2）】※2年は加配学級	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】①地域とともに「人・もの・自然」 ②総合人権学習「いのち・花・うた」 地域の地場産業や地産地消活動を体験するとともに、鉄道を利用した総合学習、伝承文化である「豊年太鼓・地区太鼓」等に継続して取り組んでいる。
2 特色	①低学年は野菜栽培、中高学年は「地産地消」（大豆栽培と豆腐作り）、5年は米作りと収穫祭、6年はそばの栽培とそば打ちに取り組む。また、北勢線を利用した総合学習に取り組む。地域伝承活動として、「豊年太鼓・地区太鼓」に取り組む。 ②児童会が中心になって、全校で「人権」の取り組みを行う。児童全員が「1人1鉢」の花を育て、夏休みは親子で世話をする。年間を通して全校合唱に取り組み、1曲の楽曲を1年間歌い続ける。花と人権学習の成果と豊年太鼓の演技を「人権のつどい～いのち・花・うた～」で保護者・地域の方に発表。
3 課題	・ 1人1鉢の花の夏場の家庭での管理が難しい。
4 地域との かかわり	・ 地産地消の活動は、農産物直売所（うりぼう）の協力により取り組むことができる。 ・ 地区太鼓は、各地区の方々に教えていただいております、地域の太鼓や祭りが継続され、将来の地域伝承活動の担い手になっていくという良い関係が生まれている。
5 その他	特色ある取り組みが、地域の中で定着している。H24年度新校舎完成。

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

笠間小学校 【児童数 252名、11学級（普10、特1）】※2年は加配学級	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】「あったかくて、いごちがいい、粘り強い笠間っ子集団をめざして～地域・保護者・異世代の交流を～」 子どもたちの生きる力（自ら学び、考え、行動する力等）の育成を目指し、豊かな体験活動や奉仕活動の場や機会の充実、組織化等を推進し、年間を通して活動している。
2 特色	1年：「自然に触れて、元気に遊ぶ」（季節見つけ、給食探検、郵便局探検等） 2年：「謎を調べ、なるほどを増やそう」（季節見つけ、給食探検、郵便局探検等） 3年：「大豆を育てることで命の大切さを学ぶ」（他に、校区地図作り、古い物調べ等） 4年：「いのち輝け～命を深く見つめ、未来を描こう」（他に、地域の姿・産業・商店調べ） 5年：「米作り、情報教育」（田植え、稲刈り、脱穀、しめ縄作り） 6年：「地域の人や歴史に学び、笠間を再発見しよう」
3 課題	地域とのつながりを大事にしてきた長年にわたる取り組みの意義を教職員が毎年きちんと整理しながら確認し、絶えず地域へ発信していくこと。
4 地域との かかわり	地域とのつながりでは、米作りにおいて、地域の農家の方を米作り先生として迎え指導を受けているほか、運動会で踊る「大安音頭」の指導を、地域の老人会の婦人部の方に毎年お世話になり、子どもたちとおばあさん方の交流の場となっている。
5 その他	「笠間祭」は、親子のふれ合い、地域と学校をつなぐ場づくりとして重要な意味を持ち、学校とPTAが協力して開催する特色ある行事である。

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

三里小学校 【児童数 278名、13学級（普11、特2）】 ※6年は加配学級	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】「人・自然・文化と関わる体験学習、課題解決学習を通して、生きる力を育む」 子どもたちの知識を深めるため、現地に足を運び五感で体験する活動を大事にしている。地域の方を中心に、様々な人とのふれあいを通しての学びを目指している。
2 特色	1年：「みてみよう・やってみよう・ひょうげんしよう」（自然ふれあい体験活動） 2年：「大好き自然、大好き三里の町」自分探検、校区探検、給食センター見学等） 3年：「三里の町はどんな町～三里の様子や文化を知ろう」（遊び、祭り、民話） 4年：「環境学習と福祉学習に取り組もう」（ゴミ分別、清掃活動、障がい者との交流） 5年：「米作り学習体験をしよう」「新聞を読んで世界を広げよう」（環境教育・食教育） 6年：「地域の歴史から出発し、世界を知ろう」（お墓調べ、戦争体験談、国際交流教育）
3 課題	・子ども、保護者、地域の中での相互のつながりが希薄になってきている。 ・些細なことであっても家庭や地域内の苦情等を学校へ持ち出されることが多い。 ・基本的な生活習慣（早寝・早起・朝ご飯）を作り出せない家庭が増えている。
4 地域との かかわり	自治会長、民生児童委員、各地域老人会とのつながりを中心にして取り組みを広げている。また、各学校行事の取組についての呼びかけや、PTAには広報誌の地域回覧をお願いし、学校の様子等を発信している。
5 その他	・「三里祭」での保護者、地域の人と交流、親子ふれあい体験活動を行っている。

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

石榑小学校 【児童数 278名、13学級（普11、特2）】	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】「いしぐれっ子、ふるさと発見探検隊」 コミュニティー・スクール（みんなでつくるみんなのための学校）として多くの人材と触れ合う中で人々の生きざまや思い・知恵を学び、自分の生き方に活かしている。
2 特色	1年「牛」：牛舎見学を通して、五感を働かせ、牛のかわいらしさを感じ取る。 2年「茶」：茶摘み体験や茶工場見学を通し五感を働かせ、お茶について学ぶ。 3年「蚕」：蚕の飼育や聞き取りを通して、地域の養蚕について知る。 4年「福祉」：三世代家族の多い石榑の高齢者との交流を図り、知恵を学ぶ。 5年「米」：米作りを通して、生産の苦労や喜び等、生産者の思いを考える。 6年「水」：「水プロ」と連携し宇賀川環境調査を実施し、生活を考える。
3 課題	・聞き取りや講師となる地域の方が、固定化、高齢化が進んでいる。 ・蚕の飼育に関して、桑の木が少なくなっており、新鮮な葉の確保が難しい
4 地域との かかわり	・総合学習は、学校支援ボランティアの方々のおかげで実施できている。 ・地域で体験学習を行う中で、地域を誇りに思い、地域を愛する心が育まれている。 ・休日や夏休みなど、地域の方に「学校施設開放」を行っている。
5 その他	・「石榑の里祭り」を毎年開催し、地域住民の約4分の1の参加がある。 ・市コミュニティー・スクール指定。学習支援ボランティアを募集し、活用している。

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

丹生川小学校 【児童数 107名、8学級（普6、特2）】	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】「心豊かに生き生きと活動する『総合的な学習の時間』の創造」 地域への直接的な関わりを通して、丹生川の自然に親しみ郷土愛を育む。また、地域住民や父母との活動を通じて地域とのつながりを深める。
2 特色	1年：野菜栽培を通して自然とのふれあいや周りの人とのふれあいを進める。 2年：栽培活動や体験活動を通じ、命の大切さを学び、自主性・社会性を養う。 3年：丹生川の今と昔を調べ、地域を再認識し、地域に愛着を持つ。 4年：マンボを通じ先人の知恵に学ぶ。身近な環境問題（節電・節水等）を考える。 5年：米や野菜を育てることを通じ、農業の大切さ収穫の喜びを体験する。 6年：交流や体験活動を通して、食生活や食文化について多様な価値観を学ぶ。
3 課題	校区に外国籍の方が住む派遣会社のアパートがあり、外国籍の子どもたちが言語の壁や集団生活に馴染めないことにより発生するトラブルがある。また、文化の違いもあり、子育て共同体としての共通認識にまで深まらない。
4 地域との かかわり	老人会による学校農園の支援や、地域見守りボランティアが PTA 数 90 人に対して 48 人もの登録がされ、地域が非常に協力的である。
5 その他	丹生川っ子祭は、児童・保護者・地域の方との交流の場として位置づいている。

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

東藤原小学校 【児童数 80名、7学級（普6、特1）】	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】「ふるさと（自然、暮らし、文化、歴史）に触れ、ふるさとに学ぶ」 藤原地区の豊かな自然や人々の営みの素晴らしさに触れ、ふるさとを愛する子どもの育成を通し、課題解決力、コミュニケーション力、活用力を培う。
2 特色	◇低学年：「ウメとなかよし」の活動、「むかしの遊び」であそぼう ◇中学年：さつまいも栽培、福祉施設と交流学習、地域の川探検と東藤水族館活動、ふるさと探検隊活動（3年）、瓢箪栽培、校内安全マップの活動（4年） ◇高学年：伝統楽器「琴」に挑戦、米作り（5年）、「ふるさと再発見」活動（6年） ◇全校：野菜栽培活動、花いっぱい活動、校区安全マップ、環境ボランティア
3 課題	学習・活動の多くが地域の方々の支援のもとに成り立っている。ただ、地域の支援者が固定化されており、学習ボランティア的な広がりが求められている。
4 地域との かかわり	・昔から各家庭で行われている梅干し作りや梅ジュース作りを体験する。 ・地域の畑を借用し、さつまいもを栽培し、支援者と焼き芋大会を行っている。 ・地域の田を借用し、田植え・成長観察・稲刈り・脱穀などの体験をする。収穫米でお菓子やご飯を作り、学校公開日に支援者や地域の方と収穫を喜び合う。
5 その他	昔の遊びを通して祖父母や校区老人会との交流を図り、豊かな情操を育んでいる。

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

西藤原小学校 【児童数 48名、6学級（普5、特1）】※3・4年は複式学級	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】「ふるさとの自然・文化・歴史・暮らしに学び、ふるさを大切にする子を育てる」 ①蚕（3・4年）とヤマユガ（5・6年）の飼育と観察、繭工作 ②生産体験（全学年）で田畑作物作り ③土石流学習（5・6年）
2 特色	①蚕は、本校以外に市内2校で取り組まれているが、ヤマユガは本校のみの取組。 ②全学年毎に作物を栽培、観察、収穫を行う。 ③土石流学習は本校だけの教材であり、生活の基盤となる大切な学習である。 他に、地域伝統行事「いもち送り」（親子松明作り）、「国際交流学習」（ハロウィンパーティー、クリスマス会で保護者・地域の方を招待）
3 課題	①継続されてきた学習であるので、マンネリ化を防ぐ工夫が必要である。 ②教科学習との関係で、十分に世話が行き届かない面がある。 ③継続されてきた学習であるので、その重要性を児童に伝えることが課題である。
4 地域との かかわり	①蛾のエサを地域の方から頂戴している。繭工作の時は、外部講師を招聘する。 ②田畑を地域の方より借用し、米作りでは地域の方々を講師に招聘し作業する。 ③県や市の防災担当者を招聘し、現地学習やハザードマップを作成する。
5 その他	小規模特認校（7年目）、「外国語活動」教育課程特区指定（6年目）

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

白瀬小学校 【児童数 89名、6学級（普6）】	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】「地域の人、もの（文化）・自然から学ぶ『生活科・総合学習』」 地域に根ざした学習を総合学習や生活科が導入される以前から行ってきた。年間を通じ各学年が系統的な学習を行い、白瀬小の取り組みの大きな柱になっている。
2 特色	◇低学年：なかよし農園（里芋、大豆等）と食育（汁団子、豆腐づくり） ◇中学年：「ふるさと再発見」～炭焼きと白瀬の自然・文化～ ◇高学年：福祉学習（ふじわら作業所、翠明院での障がい者・高齢者交流） ◇全校：ふれあい活動「しろせつ子広場」の開催、「環境学習」では太陽光・風力等のクリーンエネルギーを利用し、生ごみの肥料化を行う。
3 課題	・指導者が高齢化し、炭焼きは校区に後継者がいない。 ・児童数の減少により、農園の規模や内容の見直しを行う必要が出てきた。
4 地域との かかわり	・白瀬小教育推進委員会による「山歩きの会」や、スキーツアーの実施。 ・地域の方々の低学年の読み聞かせや4年以下の英語の絵本の読み聞かせ。 ・炭焼きやなかよし農園の指導者の方々に長年お世話になっている。
5 その他	白瀬小教育推進委員会がPTAと共に学校運営を支援している。

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

立田小学校【児童数 36名、5学級（普4、特1） ※3・4年、5・6年は複式学級	
事 項	概 要
1 学校概要	【テーマ】「地域とともに歩む屋根のない学校の創造」 地域の全てのもの（自然・人・文化）を教材とし、子ども自らが主体的に行動し、自らの地域を考え、地域を守り、発展させようとする『地域に根ざした教育づくり』をテーマに実践している。山村留学制度は25年目、ホタルの里づくりは19年目。
2 特色	1・2年：「立田の自然で遊ぼう！学ぼう！地域を知ろう！」 3・4年：「立田の生物や植物を知ろう！地域とふれあおう！」 5・6年：「調べ学習や体験活動から、自分の世界を広げよう！」 全校：ゲンジボタルの飼育・観察・調査・研究活動、ホタルの会、「山の神」行事
3 課題	児童数が減少しており、全ての取り組みが今まで通りにいくとは限らない。そこで、これまで地域と大事にしてきた取り組みや伝統は大切にして、内容は継承しながら取り組む方法等は、人数や体制にあった形に変えていくことも必要である。
4 地域との かかわり	本校の取り組みのすべてが地域との関わりがあり、地域の人々の支援や協力が基盤になっている。地域は、学校教育に対して大変理解があり、十分な支援、協力をしていただき、ふれあい、つながりの中で、子ども達は豊かに育っている。
5 その他	市コミュニティースクール指定。山村留学推進委員会等の企画で川下り、スキー、田植え、稲刈り、餅つき、龍王さん登山を行っている。

いなべ市小学校「総合学習等、特色ある取組」

中里小学校 【児童数 78名、7学級（普6、特1）】	
事 項	概 要
1 概要	【テーマ】「花で児童を育てる」 40年以上続く花づくりは、5年生の総合学習として位置づけている。全校児童が花を通じ、豊かな情操や根気強さ等の態度育成、仲間づくりにもつながっている。
2 特色	1年：教室前花壇の花植栽・観察、自然とのふれあい活動、翠明院訪問 2年：教室前花壇の花植栽・観察、畑での栽培、自然観察（草花、魚） 3年：教室前花壇に春・秋花の定植、大豆栽培・豆腐づくり、校区調べ 4年：花時計の花苗定植、観察。学級園で瓢箪栽培、加工。福祉。 5年：FBC活動、花壇管理、地温・気温観測、苗の寄贈、配布、取組発表 6年：道路側の花壇への定植と「花の中里小」PR、翠明院・特養訪問と交流
3 課題	・児童減に伴い、これまでの活動の見直しを行う必要性がでてきている。 ・花作りについては、これまで大事にしてきた伝統を活かしながらも、児童数や体制にあった形に変えていく必要がある。
4 地域との かかわり	伝統あるFBCやライトアップ等で地域にも広く知られており、保護者や地域の期待も大きく、学校に対しても大変協力的である。町内各福祉施設や市内の学校へも中里の花を配って広げる活動も続けている。
5 その他	学校経営品質向上活動を通して全職員が一致して花づくり（FBC）に関わる。

平成24年度 いなべ市4中学校区の取り組み

	北 勢	員 弁	大 安	藤 原
重 点 項 目	小中連携による学力向上	教師の授業力向上 ～授業づくりを通して～	学力向上の授業作り ～学びの連続性を見つける～	学び合う授業づくりと学力向上 ～表現力・読解力の育成～
平 成 2 3 年 度 の 成 果 と 課 題	①授業スタイルの共有化 5月中学校校内研修会に全小中学校の教師が参加し、講師前田勝洋先生の提案を受けて、各校がスタイルを作成した。そのため、スタートの段階からスタイルの共有化はほぼ図られている。1年間かけて、各校でも定着が図られた。 ②家庭学習の強化 各校や校区別研修委員会で課題の与え方、点検方法、生徒アンケートから見える児童・生徒の実態等について交流が持てた。	小学校2校では、「ユニット」と「ルーティン」の授業づくりが進められ、中学校では、どの教室でも「本時の課題」を提示し、「授業の仕方」を統一することができた。 学習規律は、中学校で15項目が提示され、西小学校では8項目提示されている。東小は、特に提示はされていないが、東小SR等での提示がある。3学期は、中学校での学習規律をもとにして、それぞれの小学校の規律を見直す。 Q-U、家庭学習については、取り組んでいるという共通理解ができている。	①生活づくりの3項目は、取組の重点項目として、5校とも学校全体で取り組んでいる。教師が統一して取り組むことで、「チャイム・時間を意識する」ことは子どもたちにも伝わり、自分たちで守ろうとするようになった。 小中の連携で、中学生が頑張っている姿を小学校の教師が見に行くということを行った。今後も教師の連携を深め、子どもたちの具体的な姿を知りたい。 授業づくりについては、小学校で行っている授業開始5分の基礎学力定着の取り組みを中学校でも始めた。	学び合う授業づくりと学力向上～表現力・読解力の育成～をめざして、藤中スタイルを核にして、各校が連携できる取り組みを進めようとテーマに掲げて取り組みを進めてきた。6月の中学校提案、11月の小学校提案各校の取り組み交流から、取り組みの成果が明らかになってきた。各校におけるスタイルの一覧表化や図表化も確立され、めざす方向が明らかになってきた。
	①授業スタイルの共有化 スタイルは定着してきたので、継続していくとともに、児童生徒の現状や発達段階に応じたよりよい授業スタイルを見出し、実践していきたい。9年後の生徒像についても小中で共通のイメージを持ちたい。 ②家庭学習の強化 今年度は授業づくりに重きを置いたため、家庭学習の強化については全員での研修が十分にできなかった。まずは、各校で家庭学習について共通認識を持つことが必要だと思われる。その上で、家庭学習において小中がどのように連携できるのか、考えていきたい。	取り組みの中心となるのは「授業づくり」でありその方向性を決められたことがまずは成果である。小学校では「ユニット」と「ルーティン」、中学校では、授業の仕方として提示されている6項目の具体化である。 授業の「展開の柱」になる部分で、今後は具体的な実践を交流していく必要がある。各校で、現在行っている研修を充実させ、来年度はそれぞれの学校の取り組みに踏み込んでいけるような交流を行っていきたい。	②授業づくりについては、各校単位で授業スタイルを作っている。今後は小学校での具体的な共通部分を明らかにして、中学校につなげる必要がある。基礎基本の学力については、中学校側からできていない実態を具体的な例・数値を示してもらった中で、小学校4校の課題とする。 ③関わりづくりについては、人権問題への対応として最優先に取り組むべき課題である。中学校を意識し、小学校でどのような取り組みを行う必要があるか考える必要がある。 ④研究指定校の成果を他校で取り入れることについてはまだ取り組みをはじめていない。来年度の課題としたい。	今後の取り組み課題として、学力向上の観点から、取り組みの日常化を大切にすると共に①②の取り組みと③④の取り組みの両立スタイル確立の中での教材吟味と授業づくりの観点を大切にしたい。話し合いが濃くなるような深まるような聴き合い学び合い、取り組みの評価、まとめを終末を大切にした授業づくり家庭学習の習慣と内容の吟味等さらなる課題の克服をめざしたい。 また小中連絡会で各校共通土台となるQ-U・NRTの持ち寄りによる子どもの姿交流も課題としたい。
平 成 2 4 年 度 に 向 け て （ 2 3 年 度 末 確 認 事 項 ）	①授業スタイルの共有化 授業スタイルを継続・改善していくとともに、スタイルだけでなく、「生徒がわかる授業」「学力向上につながる授業」を目指し、教師の授業力を磨いていきたい。 ②家庭学習の強化 授業づくりと同時に研修を進めることは難しいが、学力向上を目指すからには家庭学習の強化ははずせない。まずは校内で研修を進め、家庭学習のモデル（時間・内容・やり方）を保護者・生徒に提示できるようにしたい。課題（具体物）を持ち寄った交流も考えている。	①授業づくりについて 各校で進めている取り組みを充実させていくことが連携につながっていくと考える。具体的には小学校では、「ユニット」と「ルーティン」のある授業を土台とした、授業の「質」の改善。中学校では、集団づくりを授業の中に活かしていく具体的な検証が取り組みの中心となる。 また、2回の中学校区研修会では、授業の「内容」に踏み込んだ話し合いができるようにしたい。 ②学習規律の統一や、Q-Uの活用、家庭学習の交流については、取り組んでいるという共通理解はできているので、具体的な交流に踏み込んでいきたい。	授業づくりでは、小学校は今の授業スタイルの継続。中学校では、授業の「課題設定」について研修を深める。 中学校の実態を踏まえ、小学校での人権教育の在り方を研修する。 小中の教師が連携し、子どもの様子を見る機会をつくる。	テーマ 『学び合う授業づくりと学力の向上』—藤中スタイルを核として、各校が連携できる取り組みを進めよう。 取り組みの柱 ①藤中スタイルの学びと学習スタイルの確立 ②各校スタイルの確立の深化・進化と一般化（教職員・子どもたちの意識化） ③読む聞く話す書くを大切にした授業づくりの構築 ④特別支援の観点も大切にしたい子どもたちの育成・支援 ⑤読書活動の推進 ⑥家庭学習力の構築、丁寧な取り組みの継続 ⑦Q-UやNRTを活用した小中連携の取り組み

	北 勢	員 弁	大 安	藤 原
重 点 項 目	小中連携による学力向上	教師の授業力向上 ～授業づくりを通して～	学力向上の授業作り ～学びの連続性を見つける～	学び合う授業づくりと学力向上 ～表現力・読解力の育成～
平成 24 年度 取 組 み 重 点 項 目	①授業スタイルの共有化をもとにわかる授業を！ ～チェックシートを 意識した授業実践の2年目～ ※各校で引き続き研修を ・説明型授業からの脱却を！ ・決定事項は全教師が徹底。 ・小学校の重点項目を継続。 ・グループ学習の研修を。 ・9年後の生徒の姿を描く。 ※小中間での授業参観・出前授業、他校区授業参観、小中で指導案検討。 ②家庭学習の強化 中学校では効果的な学習方法の習得、小学校では中学校での家庭学習を意識しつつ、習慣化の確立をメインに。 仲間どうし伝え合って力をつける授業を。	一人ひとりを大切に授業 ①各校の授業スタイルを土台として、授業の中で力をつけるための授業展開を明らかにしていこう。 ②Q-Uをものさしに、集団と授業について実行ある考察と具体的な手立てについて明らかにしていこう。 ③家庭学習の取り組みについて、具体的な交流をしていこう。	課題の共有と指導の統一性 ①生活づくり ・声をしっかり出して挨拶 ・学習環境の整備 ・チャイム・時間を意識した授業 ②授業づくり ・課題を明確に。 ・自力解決と交流（深め合い）のある授業スタイルの確立。 小学校4校は今の授業スタイルの継続。中学校は班を使って交流ができるように。 ③関わりづくり ・仲間づくり・リーダー育成 ④家庭との連携 ・家庭学習と生活調べに関して、校区共通の取り組みを実施。 ※課題共有のために、小中教職員の授業交流。	藤中スタイルを核として、各校が連携できる取り組みを進めよう。 ①藤中スタイルの学びと学習スタイルの確立 ②各校スタイルの確立の深化・進化と一般化（教職員・子どもたちの意識化） ③読む・聞く・話す・書くを大切に授業づくりの構築 ④特別支援の観点も大切に子どもたちの育成・支援 ⑤読書活動の推進 ⑥家庭学習力の構築、丁寧な取り組みの継続 ⑦Q-UやN R Tを活用した小中連携の取り組み
2 学 期 の 取 組 み ポ イ ン ト	①夏休みの人権研修会（8/27）の講演会のあと、1時間を目途に6グループに分かれ、秋の中学校別研修会時の予定授業についての指導案を検討した。それを生かし、北勢中学校で行われる研究指定校の提案授業（11/7）に積極的に参加する。 ②第2回校区別研修会では、北勢中学校が今年度2回目の授業提案をおこなう。昨年度までは「形」を整えることに力を入れてきたが、今年はより質の高いものを目指して論議を深める。 ③今年度までに各校において、「家庭学習の手引き」を作成した。今年度はそれを統一したものにしていって論議を深めている。経過途中になるが、11月7日の研究指定校公開研究会の時に発表できればと考えている。	①第2回校区別研修会 員弁中学校の提案。中学校が大切に考えていることが授業の場面で明らかになるように。分散会では、中学校の取り組みについて話し合う。 ②「授業のユニバーサル化」をめざして「授業規律」「授業環境の整備」「授業スタイルの確立」等の項目毎に、小学校でも中学校でも大切にすることを整理する。 ③「学力向上」の取り組みの1つとして、「家庭学習」の取り組みについては、各校の取り組みを持ち寄り、どこまで歩調を合わせていけるかの検討を始める。	①授業づくり（授業スタイルの確立）、②生活づくり、③家庭学習の今年度大安中学校区の取り組み重点項目について、具体的に交流をすすめ、小中の連携をはかる。 ①授業づくり…第2回校区別研修会で中学校の授業づくりの取り組みを公開。 ②生活づくり…生活アンケート等の内容を交流し、同じ時期に実施することからはじめる。 ③家庭学習…各校の取り組みを交流し、今後、小中連携を意識した「学習の手引き」の作成を検討する	①各校で子どもたちがスタイルを意識する手立てを組み、子どもの質的・量的な変容・結果を報告する。 ②「対話、聞き方・話し方、反応、発言のつながり、ペア・グループ学習」について各校で実践研究し、交流する。 ③小中連絡会で中学校に申し送る書式を更新する。Q-U・N R Tも申し送る。
2 学 期 の 成 果 と 課 題	【成果】 ・北勢中学校を中心に授業スタイルの統一がある程度はかされた。 ・「家庭学習の手引き」が作成され、成果物を作ることができた。 ・授業改善により中学校の子どもたちの授業中の集中力が増した。 ・多々の授業公開、指導案検討等により、小中の教師の交流がはかられ、互いに学ぶことができた。 【課題】 ・授業での子ども様子はよりよくなっているが、本当に「学力向上」につながったかはまだ明らかではない。 ・小中の連携は深まったが、小学校間の連携を生活指導などの面からも強めたい。	【成果】 ・各校の取り組みが充実してきているので、具体的に交流ができるようになってきた。特に「授業のユニバーサル化」を目指して項目を絞り込み、具体的な取り組みへとつながることができたことは、大きな一歩になった。また、小中の連携においては、「中学校が目指す学校像を明らかにすること」「小中がさらに連携すること」をふまえた上で、小中の接続について具体的に話し合っていくという確認ができた。 【課題】 ・中学校が目指す学校像を明らかにした上で、9年間を見据えた教育活動を明らかにしていきたい。その上でも、小と中の接続について、「何をどのように」というような具体的な内容を話し合っていく必要がある。	【成果】 ・大安中学校の授業提案において、授業づくりの取り組みが明確に打ち出された。授業のチェックシートにより、小学校も授業スタイルを考える参考になった。 ・生徒会の活動とともに授業づくりに取り組むことができた。 ・各校の生活アンケートや家庭学習の内容を交流し合い、今後の取り組みの参考になった。 【課題】 ・「授業スタイルの統一」については、統一されたスタイルを使いこなす工夫が各授業で必要である。特に中学校では、統一する内容を精選し、みんながやっていける項目にしぼる。 ・生活アンケートを行う時期の統一と内容の吟味を行う。家庭での生活のルールを合わせた方が、同じ校区なので指導しやすい。	【成果】 ・中学校区で同じ方向で取り組み、授業研究でも同じ土俵で話し合えた。 ①各校でのスタイルの定着の様子を研修委員会と交流した。教具の統一や話し方指導の統一、児童会でのルールに関しての取り組みなどが報告された。 ②各校で取り組んだことで、ペア学習のねらいや活用について課題が見えてきた。 ③小学校から中学校に送る書式を作成した。学級編成のための書式に、特別支援の視点での書式を加えた。 【課題】 ・ペア学習、ペア対話については、学習能率をねらうこともS S Tとして取り組むこともできる。少人数という条件や学年の発達段階からも、一様な取り組みとはなりにくい。効果的な活用の仕方や、段階を踏んだ指導について考えていく必要がある。
具 年 体 的 末 な に 取 向 け 組 め の	・2ヶ年計画で「学力向上をめざした小中連携」に取り組んできたが、その成果を来年度以降につなげるためにどうしていくか。具体的には、中学校の授業公開をふくめ、小学校の授業公開（2校）を予定している。 ・「家庭学習の手引き」を中学校入学説明会、小学校一入入学の資料として使い、来年度から保護者に提示していく。来年度それを検証・改善していく。	①「授業のユニバーサル化」について、「授業規律」「授業環境の整備」「授業スタイルの確立」の3項目を中心に、原案を作成する。 ②「小中連携の取り組み」について、中学校を含めた形で、具体的に立案する。 以上2点を、年度末から25年度への取り組みとする。	・生活アンケートの時期や内容の吟味。特にインターネットやメールのモラル指導と児童生徒の実態を知ることが必要である。 ・小中連携した「学習の手引き」の作成をめざして、取り組みを進めるとともに、中学校では家庭学習の定着に向けて、内容や指導方法を探る。	・家庭学習の実態を交流、検討し、他中学校区の取り組みを参考にしながら、来年度子どもや保護者に提示できる内容を作成する。 ・小中連携のための申し送り書式を、小学校各学年間でも採用するかどうかが検討する。

いなべ市立小学校適正規模検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 いなべ市の市立小学校が直面する社会情勢に伴う適正な学校の在り方について調査審議を行うため、いなべ市立小学校適正規模検討委員会（「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査審議し、その結果をいなべ市教育委員会に報告する。

- (1) 市立小学校の適正な規模の学校の在り方に関する事。
- (2) 市立小学校の適正な規模の設置についての諸問題に関する事。

(委員)

第3条 委員会の委員は、15人以内をもって組織する。

2 委員は、教育行政について、優れた識見を有する者のうちから教育委員会が任命する。

(会長)

第4条 委員会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

(会議)

第5条 委員会は会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育委員会教育総務課において処理する。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成24年1月10日から施行する。

小学校適正規模検討委員会名簿

(敬称略)

	役職	氏名	
	学識経験者	マルヤマ ヤスヒト 丸山 康人	四日市看護医療大学副学長
	学識経験者	ヒガシカワ カオル 東川 薫	四日市看護医療大学准教授
	学識経験者	ヒオキ タカシ 日沖 貴	前教育長
	学識経験者	コバヤシ ヨシキ 小林 芳樹	教育研究所所長
	校長会会長	コンドウ トシヒコ 近藤 利彦	藤原中学校校長
	校長会北勢校区代表	クロフチ ヤスヒロ 黒渕 泰博	山郷小学校校長
	校長会員弁校区代表	コバヤシ トモコ 小林 共子	員弁東小学校校長
	校長会大安校区代表	フジイ ユタカ 藤井 豊	丹生川小学校校長
	校長会藤原校区代表	サンバ モリオ 三羽 守夫	中里小学校校長
	市教職員代表	カワムラ コウジ 川村 光次	石樽小学校教諭
	保育園(所)代表	コダマ ミナコ 児玉 美奈子	三里保育園園長
	市PTA連合会会長	ヒシキ タカヨシ 日紫喜 隆嘉	員弁東小学校PTA会長
	市PTA連合会母親代表	コンドウ ヨシエ 近藤 吉江	員弁東小学校母親代表